和名倉百年の森

2025
10.1
50号

wanagura hyakunen no mori　NPO法人百年の森づくりの会

水を育む山への恩返し荒川源流域での森づくりと子供の森林体験（応援：金紋世界鷹みどりと川の再生支援寄附）

巻頭言……１　／　三峰森の集い報告……２－９　／

福島県田村市の百年の森……10　／　長瀞宝登山下草刈り活動報告……11

生態学から学ぶ

理事長　高岡正彦

「生態系」と聞くと、絶滅危惧種とか、外来種・在来種の問題が真っ先に頭に浮かぶ、そしてこれらの問題は、大体が人間の活動が大きく関わっている。つまり、問題解決の為に人間の活動を振り返り、改善しなくてはならないと、単純に考えてきた。

書店で、未来を生きるすべての人の「教養の生態学」（日本生態学会）を見つけた。地球が誕生して46億年、生命が誕生して40億年ということだが、１章「地球の多様な生物たち」として、生物多様性の保全の意味・価値が語られている。２章「生物の共通性と多様化」では進化のしくみを具体的など植物、動物を例に挙げて示されている。遺伝子の配列で進化の速度も測れるということだ。人間の一生では感じ取りようもないことであるが、この進化によって、生命が繋がり続けている事の事実を受け止めたい。

３章地域集団の成り立ち、４章生物種間の関わり、５章多様な生物が織りなす生態系では、生態系の形は違いますが、エネルギーが流れ、物質が循環していることは共通していると語られている。第一生産者である植物や植物プランクトンが、太陽から届くエネルギーを光合成によって化学エネルギーに変換し、有機物の形で生態系に取り込まれるということだ。

そして６章ヒトの時代の生態系で生態系の改変が語られている。現生人類であるヒトは20～30万年前にアフリカで誕生した。ヒトは、石器、火を巧みに使い、集団で狩猟を行うことで、大型の動物種を大量に狩ることができたと考えられている。そしてヒトが分布を広げると同時にメガファウナ（人間よりも大きい動物群）の絶滅が見られる。種の絶滅率はヒトの誕生以前に比べると約１００倍になっています。近い将来１０００倍になると予想されているそうだ。

日本における生物多様性の損失の主要因は４つ。第１の危機は、開発や乱獲などで、過度に人間が自然に関わること。第２の危機は、人間の自然に対する働きかけが少なくなったこと。第３の危機は、その場所に元々無かったものが人間によって持ち込まれ環境中に放たれること。第４の危機は、地球環境の変化だ。

そこで７章で生態学×異分野と、持続可能な社会の形成として、まずは生態学と農林水産業で、キーワードとして「持続可能性」を上げ、人間活動と健全な生態系が共存できることが述べられている。さらに、生態学とグリーンインフラ（生態系を社会基盤として社会に組み入れること）が掲げられている。最後に、生物文化多様性です。ヒトが多種多様な文化を形成してきた背景には、地球上に多種多様な生態系が存在していること、つまり、生物多様性が重要なのである。

今、田舎の都市化が進んでいる。これは、田舎に外来種を持ち込んでいることになる。田舎の生態系を崩す事のない生物文化多様性を、重視すべきである。田舎が不便であっていいと言っているのではない。居住スペースは、衛生面、安全面を確保すべきだが、在来木材を使った家とし、夜の灯りは外に漏れないようにする。熊、鹿の被害を頻繁に聞くが、これこそ生態学による対応策が必要だ。

百年の森づくりの会は、水を育む山への恩返しとして植林活動を中心に活動してきているが、山全体の生態系を見渡さないと、偏った見識は、絶滅種を増やすことになり、山への恩返しにならなくなってしまう。今後、和名倉山を中心にさらに観察を深めたいと思う。生態系を楽しみ、学び、成長に繋げます。

「三峰森の集い」 2025年度夏の活動報告

副理事長　東　克明

今夏、子供達を対象とした森林体験会を当会が秩父市からお借りしている旧大滝小学校三峰分校で３件行いましたので報告します。

【(ネットワーク所沢) 三峰森の集い】

不登校児の居場所作りを行っているNPO法人子ども地域ネットワーク所沢との共催で７/19（土）～20（日)、同法人の運営支援スタッフの学生も含め小学生～社会人まで、17人と百年の森づくり関係者５人の総勢22人が参加。両団体関係者の車に分乗して出発、一日目は午後から、バードコール作りから始まり、大鋸（おが)・両引き鋸引きとサンダーでのコースター作りそして夕食のカレーは子供達が

両引き鋸　小４

野外かまどでカレー

大鋸（おが）引き

参加して野外かまどで料理。キャンプファイヤーでは、リーダーの大学生中心にバリエーション豊かな野外ゲームと小４女児が指導した女の子達のダンスと子供達のアイデアで大人も含め多いに盛り上がりました。

小学生のダンス指導

キャンプファイヤー、女子大学生リーダーの経験豊富なゲームに大人も感嘆

二日目朝はかまどで焼いたカートンドッグで朝食、車に分乗し三峯神社へ、参拝後、解散地の小手指駅へ。

7/11（金）に発生した国道140号線での落石と国道通行止めで、一時は中止も考えましたが、現地調査等も行い、林道で迂回して分校へ行きました。就寝時虫に悩まされることもあったようですが、創造性豊かな子供達の姿にこれからの可能性を感じた２日間でした。

子ども地域ネットワーク所沢にとって初めてのキャンプだそうで、副代表の清水さんには予想できないことも多かったと思いますが、互いにコミュニケーションを取り合い、何とかここまでこぎ着けました。

ネットワーク所沢の皆さん

【第２回三峰森の集い（いずみ高校山岳部)】

苗を植えてネットで囲う

百年の森づくりの会の団体会員であり、昨年第１回三峰森の集いを行った県立いずみ高校山岳部と今年も第２回三峰森の集いを開催しました。同校山岳部は旧三峰分校での訓練合宿等も行っており、手慣れた様子。同校山岳部から高校生16人顧問の先生３人、百年の森づくりの会からは役員・会員が３人、総勢22人が８/５（火）～６（水）旧大滝小学校三峰分校に集いました。高校生16人は西武線で西武秩父駅へ、ここで先生を含む大人達の車に分乗、落石事故の後埼玉県が素早い措置で暫定開通させた国道140号大滝地内の建設中の大滝トンネルを抜けて旧三峰分校へ。１日目の昼食後アンズやアカガシの苗を校庭の一部に植樹し、鹿害防止用ネットを設置。野外かまど用に薪割り、そしてペンキの禿げた木造外壁の一部の塗装などの作業も行い、夕食は定番のカレーとチャパティ、高校生達が調理主体。夕食後花火等も行い、入浴・就寝。

木造外壁にペンキ塗り

二日目は朝食後、分校手前のヘリポートから三峰公園、三峯神社を廻り分校に戻る、高校生達にとっては軽い足慣らしハイキング。帰路も高校生達は西武秩父駅から電車で帰宅。

３人の個性豊かな顧問の先生の下のびのびとチャレンジする高校生達でした。

高校生も花火は楽しみ

薪割り

分校玄関の前で、参加した高校生 16 人

【(若竹ホーム) 三峰森の集い】

上尾の児童養護施設若竹ホームと百年の森づくりの会の共催で、入所している子供達対象の２泊の森林体験会を８/７（木）～９（土)、旧大滝小学校三峰分校で開催致しました。参加した子供達は幼稚園年長さん～高校生まで男児10人女児９人、若竹ホームの職員男性６人女性２人、百年の森づくりの会関係者で男性４人女性２人の総勢33人と多数となりました。

百森関係では非会員ですが、看護師の竹田さん調理師の篠原さんが駆けつけて頂き、佐藤会員と共にとても助かりました。

百森と若竹ホームは往路別行動で、百森は一日目午前集合で受入準備、若竹ホームは職員運転の５台に分乗し、道の駅芦ヶ久保で河遊びをした後14過ぎに到着。オリエンテーションと開会式の後、かき氷作りその後子供達は分かれて定番メニューのカレー材料切りや、両引き鋸と大鋸（おが）に取組、切った木片をサンダーで滑らかにしてコースター作り、竈用の薪割りとめいめいが目を輝かして行いました。御飯は薪を燃やして釜で炊飯。定番の花火をし、子供達が入浴し終わった時点でトラブル発生。水道がストップ（断水)、秩父広域水道や近くの三峯神社に連絡を取り、まもなく水道局職員が到着、三峯神社を含む三峰地区のみに供給している水道のトラブルでまもなく解消、一安心。この間子供達はナイトハイクで近くのヘリポート（県

昔のかき氷器

薪割り

両引き鋸

サンダー仕上げ

定番の花火

御飯はお釜で

道脇のただの広場）往復、ヘッドランプ等は最小にして人工の光がない星と月明かりだけの世界を体験。

頂上から、西方遠く両神山を望む

登山道を進む

二日目、朝食は竈で焼いたカートンドック、スタッフが４時前から起きて準備した御握りを各自が持って、午前８時妙法ヶ岳往復登山に33名全員が出発。大所帯での行動は時間もかかり他の登山者にも迷惑をかけるので、百森関係者を各々リーダー（経験豊かな山屋）とする４パーティー編制で歩き出しました。登山は初めての子供達ばかりで、途中弱音を吐く事もありましたが、年長さんを含むほぼ全員が分校との標高差約300ｍの妙法ヶ岳頂上（h ＝1,329m）を踏み、三峯神社でお賽銭の５円玉を奉じて午後３時前には分校に無事戻りました。

頂上は狭い

スイカ割り、ドンピシャ

スイカ割りの後、早めの入浴をして、ハンバーグと釜の御飯で夕食。キャンプファイヤーでは大人も一緒に体を動かすゲーム。子供達はプラバンでのクラフト作りの後ぐっすり就寝。

キャンプファイヤー

三日目、かまどで茹でて組んだ竹で流しソーメン、皆お腹いっぱい。掃除や片付けの後、講堂で解散式。３日間の写真と動画を職員の方が寝ずに編集、上映会で映像が流れると、百森関係者６人うるっとしてしまいました。６人に感謝のプラバンを頂きさらに感激。

昼前に若竹ホーム関係者は帰路に、見送った百森関係者もさらに分校の掃除片付けをして帰路につきました。

年上の子が年下の子供達の面倒を見る姿はほほえましく、又参加した子供達に貴重な体験を提供できたような気がします。職員を含め百森関係者も盛り沢山のメニューで、心地よい疲労につかりました。

流しソーメン

未来を担う子供達に森の豊かさを感じてもらうと、未来のためと思って森林体験会を開催したのですが、同時に森・自然は子供達に元気や勇気や前向きな気持ちを授けることを、子供達自身から教わりました、子供の皆さんに感謝。M君が叫んだ「森、サイコー」が忘れられません。

最後に、この３回の「三峰森の集い」を通じて、救急箱を新調・嘔吐対応キットを準備・ＡＥＤ持参・スズメバチ対策・秩父地域の医療体制の調査とヒアリング等可能な範囲で事前準備をしました。妙法ヶ岳登山ではまさか使うまいと思いながらも簡易テントと簡易トイレを持参、下山時に使用。若竹ホーム三峰森の集いでは、小さな怪我もありましたが看護師の竹田さんが適切に対応。３回とも、大きな怪我も事故もなく無事に終えました、共催して頂いた関係者の皆様にも感謝です。

参加者一同

百森関係者、平均 71 歳

ちょっと休憩

製材用鋸

室町時代中頃までわが国に縦挽鋸はなく、鑿による打ち割り法で製材が行われていた、中世に入り２人挽きの縦挽鋸「大鋸（おが）」が大陸からもたらされると製材能力は飛躍的に向上し、建築生産に大きな影響を与えるようになった。その後「前挽大鋸」に形を変えて伝えられ、明治中頃に機械製材に取って代わられるまで製材の主流であった。（竹中大工道具館より）

１人挽きの製材用縦挽鋸「前挽大鋸」（明治頃・近江甲賀産）

東日本大震災復興支援

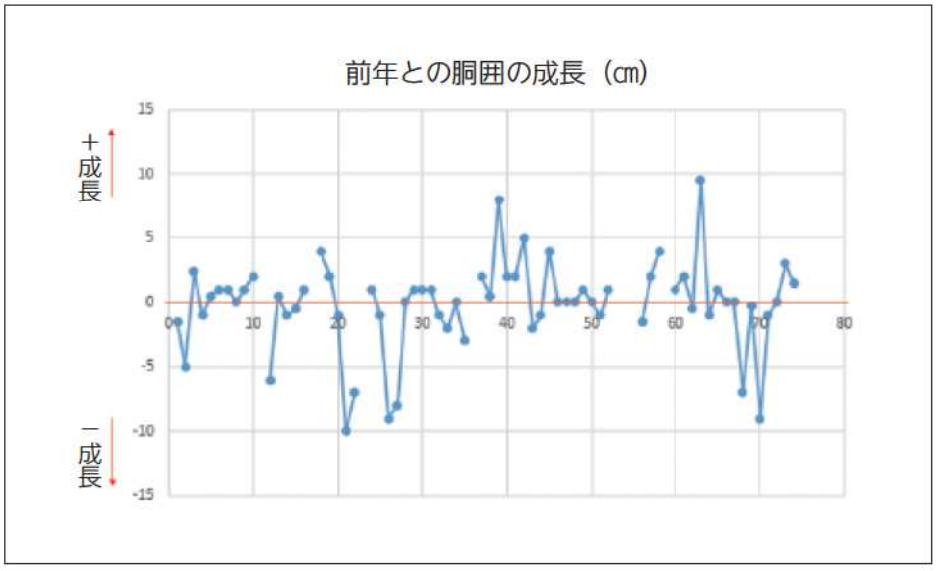
４/６～７東日本大震災植林地田村の森視察（７回目）

常務理事　守谷　裕之

７回目となった視察をいつもの４人で行った。

林道周辺に植樹したブナはその時点で17年もの、約高さ1.5m、太さ５cmはある。それらが一番太いものは41cmまでに育った。逆に前年比で10cmも痩せてしまったブナもあった。記録して行くと７本が見つからず記録が取れなかった。それら67本を前年度と比較してみた。そうしたら全て成長しているはずが半分近く細くなっている結果となった。それが下のグラフである。横軸が１本ごとにNo.１からNo.74まで番号を付け、縦軸は胴囲の成長で赤線が０、上が＋成長した胴囲で下は細くなって－成長とした。全体とすると0.19cmマイナス成長であった。今後の測定方法検討しなければならない。

昨年ピンクのテープにマジックで記入した番号が消えて記録用紙に記入できなかった。今年はその更に奥に入って調査しようと思ったが断念した。やはり木札を付けないとダメで測定の高さも木自体が成長している。枝分かれしている場合どこを測定したら良いのか迷う。毎年参加している大池さんから全体を見れば成長しているのは間違いないのでそれ程細かく測定する必要はないという意見をもらった。



ポット苗から植えたブナもしっかりと根付いている。

一番太いと思われるブナ

2025年度　長瀞宝登山下草刈り活動報告

■ 4月13日（日）　雨
雨天のため中止。

■ 5月11日（日）　晴れ　　メンバー　５名参加
本日はツツジ類を植栽した箇所を中心に下草刈りを実施しました。下草刈りを継続して行っている結果、下草の中に埋もれていたヤマツツジは、しっかり育っています。
下草刈りを終えて、ツツジ類もホットしていると思います。

■ 6月15日（日）　曇り　メンバー　９名参加
東側斜面のサクラの植林箇所の下部の広葉樹林帯を中心に下草刈りを実施しました。毎年草刈りを実施しており、草の生え方が少なく感じます。クリなど広葉樹も大きく育っています。枝打ちも実施しました。

■ 7月13日（日）曇り　メンバー　７名参加
今日は梅雨明けして、暑い中での作業となりました。東側急斜面の広葉樹の植林箇所の草刈りおよびツル刈りを実施しました。７月は雑草の生え方が違います。新しく購入した電動草刈り機がフル活動です。水分補強をしつつ、２時間作業を行いましたが、皆さん汗だくになっていました。おかげさまで広葉樹林帯の整備が大分進みました。

■ 9月7日（日）　晴れ　メンバー　18名参加
例年８月に作業していましたが、暑さを避けるため昨年から９月に変更して実施しました。
今年も三井住友海上火災のボランティアの方々が参加くださり、今回は東側最下部急斜面の広葉樹箇所の下草刈りを実施しました。大勢の参加をいただき、感謝、感謝です。

おかげさまで今年度は延べ39名の方に参加いただき、植樹したサクラ類、ツツジ類、クリやカエデなどの広葉樹林のほぼ全域の下草刈りを実施することができました。
さくら類は大きく、ツツジ類も花付きも良くなり、そしてクリやカエデなどの広葉樹林も順調に育っています。
今年度は、この後追加事業として、10月19日（日）にヤマツツジ20本の補植作業を実施します。長瀞宝登山の森づくりを開始してから18年経過しました。これからは、「宝登山の森」を一般の方々にも楽しめるよう、作業道の整備なども検討していきたいと思っています。

この活動は、令和７年度埼玉県 NPO 基金の助成
（応援：金紋世界鷹 みどりと川の再生支援寄附）
により実施しています

紅葉に映える三峰分校

和名倉百年の森　第50号 2025年10月１日発行
発行者：ＮＰＯ法人百年の森づくりの会　高岡　正彦

ＮＰＯ法人百年の森づくりの会事務局
〒336-0015　さいたま市南区太田窪2034-1
TEL　080-6567-2152
http://www.100nen-forest.org/　e-mail：info@100nen-forest.org